

# 被災建築物応急危険度判定士の養成による迅速・的確な対処体制の確立

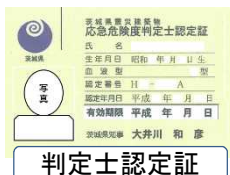
— 判定体制の整備・熊本地震への派遣 —

## 応急危険度判定について

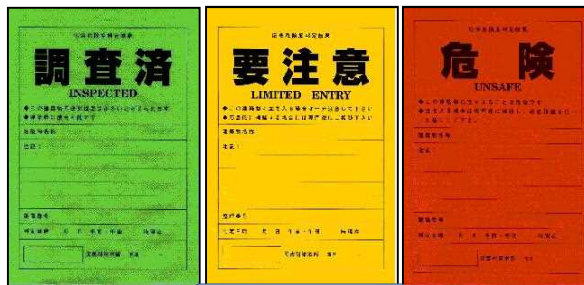
### ● 応急危険度判定とは…

「応急危険度判定士(県登録)」が、地震直後に被災建築物を調査・判定します。

- ① 余震などによる建物倒壊の危険性、外壁・窓ガラスの落下、機械設備 (ex. 給水タンク) の転倒などの危険性を調査
- ② 建築物の危険度を「調査済」「要注意」「危険」の3段階で判定
- ③ 判定結果を「判定ステッカー」により建築物に表示



判定作業状況



判定ステッカー

建物所有者・使用者・歩行者などに  
危険の注意喚起

人命に関わる二次災害を防止！！

## 応急危険度判定体制の整備

● 万が一、地震が発生した際に迅速に対応できるよう、講習会や訓練を実施し、体制の強化を図っています！

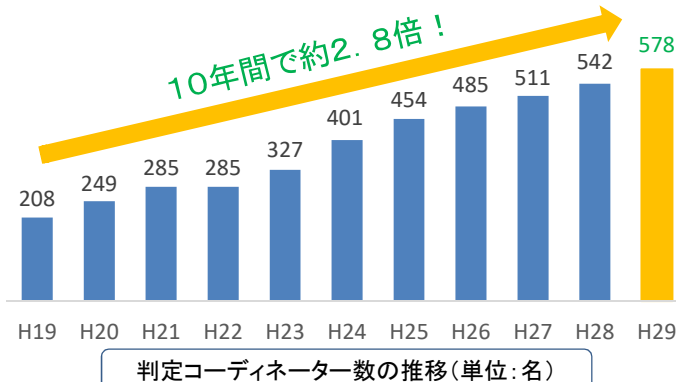
- ◆ 被災建築物応急危険度判定士講習会  
講習会を受講した建築士・行政職員を判定士として登録  
⇒ 2,177名の判定士を確保！(H30.1現在)
- ◆ 被災建築物応急危険度判定模擬訓練  
意図的に破損させた建物(地震被害を再現)を利用し、判定士の技術向上を目的とした判定模擬訓練を開催
- ◆ 応急危険度判定に係る判定コーディネーター訓練  
被災市町村で、応急危険度判定活動に係る指揮・監督を行う「判定コーディネーター」を養成  
⇒ 578名の判定コーディネーターを確保！(H30.1現在)



応急危険度判定模擬訓練



判定コーディネーター訓練



## 活動実績

● 制度創設(平成9年)以降、大地震発生後の被災地において、判定活動を実施してきました！

- ◆ 熊本地震 (平成28年4月15日発生)  
第1陣: 4/23~25 (3日間) 4名派遣 (熊本市内)  
第2陣: 4/26~28 (3日間) 6名派遣 (熊本市内)  
⇒ 6日間で延べ30名派遣, 309棟を判定



熊本地震における判定活動

### 本県の判定士の主な活動実績

新潟県中越地震 (平成16年)	9日間で延べ251名派遣 判定棟数 2,232棟
新潟県中越沖地震 (平成19年)	5日間で延べ139名派遣 判定棟数 1,468棟
東北地方太平洋沖地震 (平成23年) ※東日本大震災	14日間で延べ929名派遣 判定棟数 15,863棟 ※茨城県内における判定実績